池へのコインを動物愛護に

英国の伝統 寄付を決定

花博

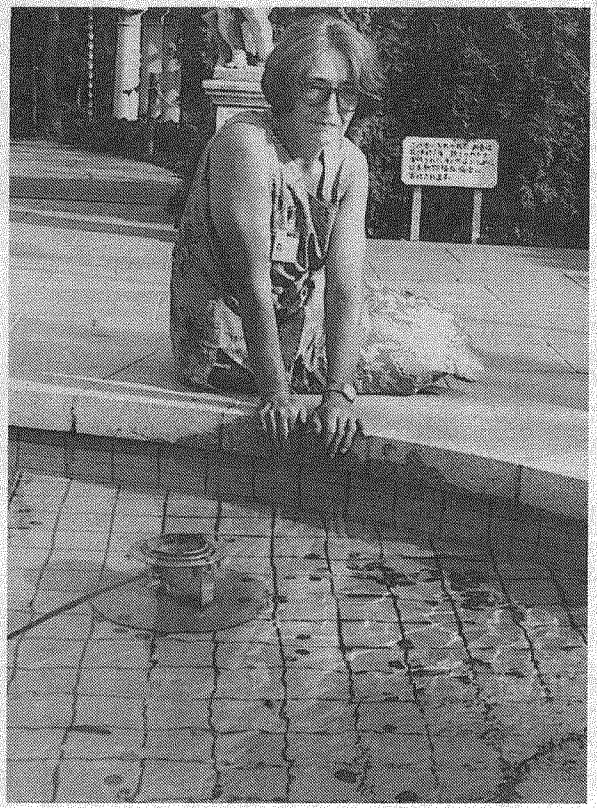
大阪・鶴見緑地の花の万博の国際庭園で、入場者が池にコインを投げ込み、処理に困っていた出展者が多いなか、イギリス庭園の出展者が閉幕後にまとめて動物愛護のために寄付することを決めた。

イギリス庭園は一千平方㍍で、山のエリアにある国際庭園の中でも最大規模。池は十八世紀の古典的な寺院を模した東屋がある広場にあり、約六平方㍍でタイル張りの楕円形。

開幕当初から入場者が池に五円玉や十円玉などのコインを投げ込み、日曜日など人が多いときには底が見えなくなるほど。池を清掃するときは、コインも引き上げて洗ってから再び池に戻すなど手間がかかっていた。

庭園を管理しているエリザベス・オリバーさん(四九)が、同庭園出展委員会と相談。二十年前から日本で動物愛護運動を続けているオリバーさんの提案で、「たとえ少額でも、動物保護への関心が高い英国の伝統を広く知ってもらうためにも」と、日本動物福祉協会(本部・東京)へ寄付することになった。七月末までのコインは約六千円になっており、花の万博協会の外事部に預けている。

国際庭園ではネパールやインドネシア、ソ連などのせせらぎや噴水にコインが投げ込まれ、各国とも寄付などの処理を検討中だ。



コインが投げ込まれている英国庭園の池とオリバーさん＝大阪・鶴見緑地の花の万博の山のエリアで